

報 廣 しばた

2009

新春

特別号

since 1961

No. 567



新年明けましておめでとうございます。

昨年は米国のサブプライムローン問題や原油や穀物の高騰が日本経済を直撃し、景気の低迷はしばらく続くことが予想されております。

国は年明け早々、「地方が元氣にならなければ国も元氣にならない」として、さまざまな緊急経済対策を予算化することとしております。しかし、多額の借金を抱えた国には、もはや、すべての地方自治体の面倒を見る力が無くなっており、これからの地域の発展は自助努力以外には無いことを知るべきではないかと思えます。

何といつても今年の最大の関心事は再び蒸し返された3町合併問題です。合併の必要性は、「地方分権や少子高齢化社会を迎えて、行政の垣根を取り外して、行政能力の向上や財政基盤を強化し、仙南の中核都市の実現を目指すため」とされています。しかし、合併した自治体を検証した全国町村会の報告では、「合併の成果より、弊害の方が大きく、住民サービスの低下や行政と住民との距離が遠くなった」として、「平成の大合併は失敗だった」と結論づけました。国も平成の大合併後の現状として、「合併後本庁が置かれたところに人や産業が集中する一方で、周辺部となった旧町村の寂れた姿は目を覆うばかりである」として、新たな地域の支援策となる定住自立圏構想を打ち出してきております。定住自立圏構想とは人口5万人以上の中心市と周辺市町村で協定を結び、圏域全体で医療、福祉、商業施設などの都市機能の共有化を図り、また、乗り合いタクシーや市民バスを運行し、定住自立が可能な広域圏を形成しようとするものです。まさに、これまでの合併推進路線の修正を図ろうとする動きであり、私の考

らなる進化を目指して

紡

2009
—つむぐ—

人と人との関係、住民と行政との信頼の糸を紡ぎみんなで支え合う社会をつくりたいとの思いを漢字一文字に託しました。

コンパクトシティの 実現を目指して

これからの未来社会を考える場合、人口の減少や都市の縮小、水や地下資源の不足、地球温暖化などによる制約要因を考慮しなければなりません。時代の潮流が大きく変化するなかで私たちの目指すべき社会とは、資源の浪費を慎み、借金の付けを次の世代に先送りすることのない、足を知る経済や持続的な社会の実現です。行政と住民が一致協力して、地域の自然や歴史や文化などの資源を活用して、地域が潤う仕組みを考え、皆で汗を流すことで持続的な発展が可能になると思います。

今後、独自の施策を打ち出す際の適正な自治体の規模を5万人程度と見据え、人と人が支え合う、質の高いコンパクトシティの実現を目指したいと思います。

今年、未曾有の経済危機の中からの出発となりましたが、困難を前にただ嘆いてばかりはいられません。柴田町の活力の源泉である東北で2番目の大きな町としての誇りや600社余りの企業が立地しての経済力、そして、まちづくりに情熱を燃やす住民力を生かして、これからも振れること無く自立戦略を進化させてまいります。

年の始めにあたり、あらためて志を高くし、町を愛する住民の力を引き出しながら希望の階段を着実に上って

いきたいと思っ
ておりますの
で、どうぞ
よろしくお
願いいたし
ます。



柴田町長
滝口 茂

えと軌を一にするものであります。

私がこれまで自立戦略を唱えてきた理由は三つあります。一つは、先行して合併した自治体の住民からは「合併して生活が良くなった」との声が聞こえて来ないこと。二つは、国からの支援策は、将来の子どもや孫に借金の付けを回す毒饅頭であることが明らかになったこと。三つは、柴田町は合併以上の行財政改革を進め、住民、議会、職員が一体となってその痛みに耐え、財政危機への不安を取り除いたことであります。

地方分権とは、自分たちで出来ることは自分たちで行うということが基本であり、国のお金をあてにして、役所を大きくすることではないと思います。少子高齢化社会を迎えて大切なことは、住民と身近な役所が絆を深め、信頼の糸を紡ぎあいながらより良い地域社会を築いていくことではないかと思えます。

誇りと情熱を活かした 自立戦略のさ

「もったいない運動」町民会議

活動報告



もったいない町民大会（環境フェア）

昨年の10月5日、柴田町民体育館で開催し、850人の皆さんに会場いただきました。

町内には「環境を守りたい」と活動している団体がたくさんあります。当日は、各団体の活動内容の展示や実演を行い、地球温暖化防止・ごみ減量・レジ袋削減など一人一人が「今からできる、すぐできる」取り組みを紹介しました。



また、ミニ出前講座として3人の講師を招いて講演を行いました。県地球温暖化防止活動推進委員の木幡さん（柴田町在住）から「地球温暖化」について、また県保健環境センター職員2人は「地球温暖化」「食と安全」についてそれぞれ講演を行いました。

町内小中学生環境標語・ポスター展は来場した皆さんに投票していただきました。環境標語展の投票数上位作品をご紹介します。

最優秀賞

捨てないで ゴミとあなたの 良心を (船迫中学校 飯田 笙さん)

優秀賞

「もったいない」地球を救う 合言葉 (船迫中学校 平間 晴佳さん)

マイバック いつも持とうね エコのため (船岡中学校 広田 真弓さん)

エコロジー 言っているけど 気にしてる？ (船迫中学校 佐藤 佳さん)

区別して 処分でいいもの だめなもの (槻木中学校 伊藤 巨輝さん)

マイバック持参キャンペーン第2弾

平成19年度に引き続きマイバック持参キャンペーン第2弾を昨年10月1日から3カ月間実施しました。前回よりもマイバック推進店（協力してくれるお店）も増え、多くの方に取り組んでいただきました。皆さんの取り組みの結果である、カード回収枚数は現在集計作業中です。

スタンプが20個たまらなかった方へ

景品と取り換えはできませんが、あなたの取り組みを教えてください。途中のカードもマイバック推進店や公共施設、商工会で1月12日まで回収しています。あなたの取り組みも合わせて集計しますので、ぜひカードをご提出ください。



モ～ やってる!?

今年は一人でも多くの人に取り組んでもらいたい！今まで取り組んでいた人はさらに一歩前に進んでもらいたい！それが「もったいない運動」

が「もったいない運動」町民会議の願いです。



紙は資源

まだ燃えるごみに出していませんか？お菓子やたばこなどの箱、メモ用紙に包装紙などはすべて資源です。細かい紙は、紙袋に入れば保管も出すときも簡単です。ぜひ、大掃除できれいになったお部屋の片隅に紙袋を！



次の一歩



包装紙など過剰包装を断わったり、肉や魚のトレイはスーパーの店頭回収を利用したりすると燃えるごみはもっと減るはず。

生ごみの水切り

野菜の皮などはできるだけ濡らさないようにしましょう。シンクの排水溝や三角コーナーにためて濡れてしまった生ごみは、ひと絞りにして水気を切りましょう。水切りはごみの減量だけでなく、悪臭対策にもなります。快適に家事をしたいですね。

次の一歩



生ごみ処理機で堆肥にしたり、無駄のない料理を考え実践したりすると生ごみはきっと減るはず。



お買物はマイバック

汚れたものを入れたり、畑で取れた野菜を配ったりするのに使ったり、とても便利なレジ袋ですが、あなたの家には使わずしまったままのレジ袋がどのくらいありますか？「必要ない時はもらわない」から始めましょう。



次の一歩



マイ箸、マイカップなど、自分専用の物を持っていたらとってもおしゃれかも。

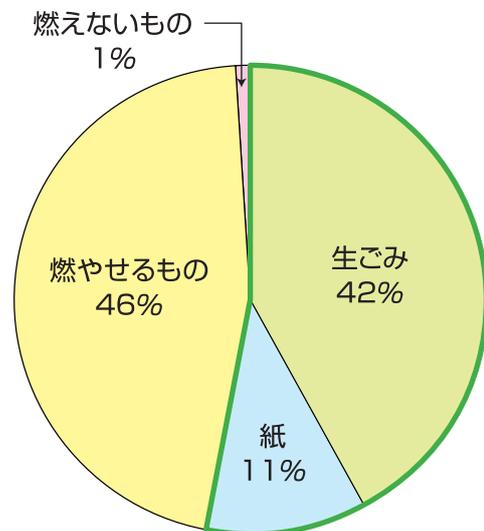
町から出たごみの量

平成 19 年度に 1 年間で出たごみの量は 14,090 トンでした。平成 20 年度の 4 月から 11 月までは 9,378 トン。平成 19 年度の同じ時期 (9,758 トン) と比べると約 400 トン減っています。集積所に出される量自体が減っていることから、一人一人の「ごみになるものを家に持ち込まない」意識が大きな結果に結びついています。



燃えるごみの中身

平成 19 年度にごみの中身調査を 4 回行いました。全体の 4 割が生ごみ、1 割が紙資源という結果になりました。生ごみは水切り、紙資源は分別にご協力ください。



すごろく

昨年はどのような出来事があったのか、
すごろくで振り返ってみましょう。

さあ、**スタート**です。

柴田の2008



大人への一步を踏み出した**成人式**。
旧友との再会を喜び合いました。

1月



やさしい光は、
子どもたちへのプレゼント。

12月



介護予防推進大会。
創作ダンスで
「わくわく元気」



2月



3月



やっぱり柴田の桜が
一番綺麗だと思います。

4月



涙の卒業式。
思い出いっぱいの校舎から
離れられない。1回休み。

2008

いよいよ合併協議会が
スタートしました。

1つ進む。



9月



SUGO

8月



第1回産業フェスティバル
が開催され多くの人で
賑わいました。

10月



夏はプールだ！
北島康介選手
目指して練習するよ。

7月



29C区の
皆さんが植えた
ラベンダーが
とても綺麗でした。

丹精込めて育てた菊を多数展示
みやぎ大菊花展柴田大会

11月



6月



全町挙げての
スポーツのまちづくり
を目指しています。

入学したばかりの1年生も
元気よく競技に参加した
運動会。

2つ進む。

6月



仙台大学の
健康づくり運動
サポーターと
一緒に健康づくり。

5月



まちかど NEWS



拾ったごみもきちんと分別

地域一体で清掃活動に取り組む

11月22日、槻木地域づくり推進協議会員による清掃作業が行なわれました。会場となった阿武隈川河川敷の清掃には地区住民など250人が参加して、土手や川沿いの草むらの中からさまざまなごみを回収しました。ごみは昨年よりも減っていました。それでも2トントラック3台分のごみが集められました。一人一人がふだんから環境美化に努め、美しい町を守っていきましょう。

675人が仙台フィルの世界を味わう

11月18日、町内の小学6年生と中学1年生が仙台フィルハーモニー管弦楽団による演奏会「未来へつなぐ夢コンサート2008」に招待されました。これは、町内2カ所に工場を持つ北日本電線株式会社が地域貢献活動の一環として子どもたちに本格的な演奏を聴いてもらおうと開いたものです。指揮者体験コーナーも行われ、子どもたちは世界の名曲を楽しみました。

華麗な演奏を披露する仙台フィル



水原会長(左)と滝口町長

健康づくり活動で全国表彰

10月23日、高知県で開催された「全国食生活改善推進員団体連絡協議大会」で柴田町(柴田町食生活改善推進員連絡協議会・会長水原和子)が団体賞となる南賀屋賞を受賞しました。この賞は、地域で健康づくり活動に貢献した実績があり、将来も期待できると認められた団体に授与されています。協議会では、これからも地域の皆さんの食生活改善や健康増進のために活動をしていきます。

グランプリはどのお菓子?

11月30日、柴田の特産品であるユズを使ったお菓子を創作して町の名産とすることを目的に「ゆずを使ってお菓子コンテスト」が開催されました。これは、町内の5つの団体が協力して企画したもので町内外から11人が参加し、14作品で競いあいました。

最優秀賞・サンシャイン青葉「ユズクリーム焼き」、優秀賞・岩渕あき「ゆずの里」、特別賞・吉田誠(欧風食堂 ナチュール)「ムースユズ



人口と世帯数



38,971人 (前月比18人増)



19,489人 (前月比11人増)



19,482人 (前月比7人増)



14,503世帯 (平成20年12月1日現在) (前月比11世帯増)